

# 令和2年度における大竹市の決算状況

## 1 収入及び支出の状況

令和2年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における歳入総額は、210億1,424万1,773円（対前年度比44.7%増）、歳出総額は、201億1,115万7,121円（同比44.1%増）となり、歳入・歳出ともに前年度を大きく上回りました。

形式収支は、9億308万4,652円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源8億9,368万4,323円を差し引いた残額、すなわち実質収支は、940万329円となりました。

### （1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、固定資産税が約5,612万円、法人市民税が約6,094万円減少したこと等により、市税全体で約1億5,674万円（対前年度比2.4%）の減となりました。

また、地方交付税は約1億5,613万円（同比10.3%）の増、地方消費税交付金は約1億879万円（同比21.3%）の減となりました。

市債は、大竹会館改築等事業債や本庁舎耐震改修事業債の増により、約18億1,893万円（同比108.1%）の増となりました。

### （2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう、次の事業に取り組みました。

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

#### ① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

主な取り組みは、「学習用コンピューター整備事業」として、国が推進する

「GIGAスクール構想」に沿って、児童・生徒に1人1台のタブレット型端末を整備しました。また、授業などで活用できるように、「**情報通信ネットワーク環境施設整備事業**」として、各学校のネットワーク環境を整備しました。

## ② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**大竹駅周辺整備事業**」として、自由通路等の本体工事を実施したほか、昨年度に引き続き工事に支障となる物件の補償などを行いました。また、「**道路・橋りょう新設, 改良事業**」として、踏切を拡幅し歩道を整備するとともに、踏切東側にスロープと階段を整備する「**青木踏切改良事業**」を実施しました。

## ③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**救急救助体制充実事業**」として、高規格救急自動車を整備しました。また、「**本庁舎耐震改修事業**」として、防災拠点としての機能を確保するために、昨年度に引き続き本庁舎の耐震改修等を行いました。さらに、「**一般河川（水路）浚渫事業**」として、早期に流下能力の確保が必要な河川の浚渫を行いました。

## ④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**市立保育所等整備事業**」として、子育てしやすいまちづくりの推進のために、本庁舎敷地内において、公立保育所と子育て支援関連施設の建設工事に着手しました。

## ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、活き

活きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「大竹会館改築等事業」として、公共施設の規模適正化、防災拠点機能の強化、利用者の利便性の向上を図るために、耐震性に問題のある大竹会館建て替えを実施しました。

## ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

主な取り組みは、「まちづくり基本構想等策定・推進事業」として、市民と行政がともに目指す未来に向け、協働してまちづくりを進めていくための新しい指針となる大竹市まちづくり基本構想の策定しました。

また、新型コロナウイルス感染症対策の取り組みとして、「特別定額給付金給付事業」、「クーポン券発行等事業」、「商工振興事業」、「出産育児応援給付金給付事業」、「医療体制支援事業」などの事業を実施しました。